

“東京で 識る東北” —復興支援・地域活性化のための宮城観光促進に関する研究—

大嶋 淳俊¹、宮本 真一¹

“Understanding Tohoku in Tokyo” — A Study on Miyagi Tourism Promotion for Restoration Assistance and Regional Revitalization —

Atsutoshi Oshima, Shinichi Miyamoto

1. 背景・目的

本プロジェクトは、2011 年 3 月の東日本大震災で甚大な被害を受けた東北地域、中でも宮城県に焦点をあてて、復興支援・地域活性化を目指したものである。

プロジェクトの目標として「東京（特に若い女性に）で東北・宮城の魅力を伝えてファンになってもらう」を掲げて、「宮城の復興の動きと活躍する人や、隠れた観光の魅力を Instagram や学園祭のイベントを通じて伝える」や「東京の宮城アンテナショップ等と連携して、その活動を紹介したり、宮城の食材を利用したレシピの提案」といった“リアル x ネットの両面”から活動を展開してきた。

実施においては、地域の課題を解決するために、地域のステークホルダーと連携した「地域連携型 PBL (Project Based Learning) プロジェクト」方式を採用している。これにより、「東京」の視点だけによる支援ではなく、東京の大学生が協働する中で地域の実態を学びつつ、課題解決に向けた一助となるような「目に見える成果」を創出することで、学生達に成長の機会と地域の魅力発掘・活性化への後押しを意図している。

宮城県を活動対象とした理由の一つは、研究代表者が 2019 年 4 月から公立大学法人宮城大学の専任教員として着任し、復興支援・地域活性化の取り組みを進めており、そのネットワークを活用することで、地に足の着いた活動ができると考えたからである。

学内公募で集まった様々な学部 1 年生～4 年生の有志 11 名がメンバーとなって、2019 年 5 月から発足した。

なお、本プロジェクトは、対象地域こそ異なるが、2017～18 年度と 2 カ年にわたり実施した『東北復興支援のための PBL 手法による観光促進に関する研究 ～いわき湯本温泉の活性化～』と趣旨は同じであり、姉妹プロジェクト的な位置づけにある。同プロジェクトで

¹ 昭和女子大学 現代ビジネス研究所 研究員

は、福島県いわき市の「いわき湯本温泉活性化」を目的に、①女子旅プラン造成、②観光 PR 動画制作、③東京の福島アンテナショップでのイベント開催等を実施した。同プロジェクトで制作した観光 PR 動画『フラッと女子旅 湯本へGO！ ～フラってあなたも湯本女子♡～』は、第 2 回日本国際観光映像祭の日本部門で入賞した。また、現在もいわき市・いわき湯本温泉で国内外の観光促進活動において活用されている。

2. プロジェクト体制

2.1. 実施体制

(1) 担当研究員

大嶋淳俊、 宮本真一

(2) アドバイザー

磯野 彰彦 グローバルビジネス学部教授（兼 キャリア支援センター長/キャリア支援部長）

(3) 学生メンバー （学年順）

後藤 史帆	大学 生活科学部 健康 健康	4 年 ※
生田目 咲	大学 国際学部 英コ 英コ	3 年
吉田 裕香	大学 人間社会学部 現代 現代	2 年 ※
亀井 絵梨香	大学 人間文化学部 歴文 歴文	2 年 ※
山下 さくら	大学 国際学部 英コ 英コ	1 年
鈴木 七実	大学 生活科学部 安全 安全	1 年
大本 真弥花	大学 生活科学部 安全 安全	1 年
八田 麻生	大学 人間社会学部 現代 現代	1 年
岩本 瀬菜	大学 グローバル ビジ ビジ	1 年
富田 結衣	大学 グローバル ビジ ビジ	1 年
渡邊 萌音	大学 グローバル 会フ 会フ	1 年

上記 11 名の学生メンバーは、学年・学部学科とも多様で、各自の得意分野や関心を活かして積極的に取り組んだ。

なお、「※」の学生は、前年度の福島県・いわき市のプロジェクトに参加していた学生達である。東北復興支援・地域活性化を目指した地域連携型 PBL プロジェクトを前年に体験していたことで、今年度のプロジェクトでもリーダーシップを発揮して成果発現に貢献していた。

2.2. 協力組織・団体

プロジェクトの実施においては、行政からマスコミや地元企業など様々な組織の協力を頂いた。主な協力組織・団体は次の通りである。 ※一部の組織では略称を使用

【行政・団体・大学】

- ・ 宮城県東京事務所
- ・ 一般社団法人 石巻圏観光推進機構
- ・ 一般社団法人 女川町観光協会 等
- ・ 宮城大学 大嶋研究室

【企業等】

- ・ 秋保ワイナリー
- ・ アキウ舎
- ・ アキウツーリズムファクトリー (ATF) 等

【マスメディア】

- ・ 河北新報社
- ・ 東北放送 等

3. プロジェクト概要と成果

3.1. プロジェクトの流れ

本事業は、大別して 3 つのフェーズで下記の内容に取り組んだ。

表 1 フェーズ別の取組内容

段階別フェーズと中心テーマ	主な活動
【フェーズ I】 (2019 年 5 月～8 月) リサーチと東京でのフィールドワーク レシピ開発	◆ 知識付与 ◆ チームビルディング ◆ アンテナショップの自主調査、会合 ◆ 宮城の食材を使ったオリジナルレシピの開発 ◆ 宮城フィールドワークの準備
【フェーズ II】 (2019 年 9 月～11 月) SNS 活用による情報発信 公式 Web サイトによる情報発信 秋桜祭での発表会兼展示会 ビジネスプランの作成	◆ 宮城フィールドワーク〔訪問：9 月 4-6 日〕 ◆ Instagram による情報発信 ◆ 公式サイトの制作 ◆ 秋桜祭での発表会兼展示会の準備と実施〔11 月 9-10 日〕 ◆ ビジネスプランの作成

【フェーズ Ⅲ】 (2019 年 12 月～2020 年 3 月) フォトブック制作 宮城県東京事務所とのイベント協働<中止>	◆ 宮城県東京事務所との協議 ◆ フォトブックの制作 ◆ 3 月の復興イベントの準備 ※但し、ウイルス問題でイベント中止
--	---

※個別の活動については、本プロジェクトの公式サイトや S-Labo 参照
 (<https://oshima-lab.wixsite.com/tohoku-tokyo>)

定例会議以外にも、学生メンバーは昼休みや授業後に自主的に集まって何度もミーティングを実施した。

3.2. プロジェクト活動：宮城フィールドワーク

宮城の復興の状況や努力と、観光の魅力を探るために、二泊三日のフィールドワークを実施した。秋保温泉では、復興のために活動するアキウツーリズムファクトリーやワイナリーを立ち上げて活躍している起業家の話を聞いたり、宮城の食材を使った古民家レストラン「アキウ舎」でフードツーリズムについて考える機会を得た。石巻、東松島、女川地区では、震災遺構をまわったり、語り部の話を聞いたりして復興の大変さと克服しようとしている努力を学んだ。さらに、観光促進案の一環として、全員がレンタサイクルでサイクルツーリズムを体験した。

仙台市内に戻って、宮城最大の新聞社である河北新報社で、東日本大震災当日から現在にいたる震災復興の動きについて、新聞社の視点で学ぶことができた。

宮城の女川町でのフィールドワークの様子は、テレビのニュース番組でも紹介された。

図 1 プロジェクト概要 (1)

『東京で識る東北〔宮城県観光促進〕』プロジェクト-1

【目標】 東北の復興支援の一環として、東京（特に女子）で宮城の観光の魅力を女子大生の目線で伝えてファン創出へ

1. 宮城アンテナショップ等と連携して**宮城の食材**を利用した**レシピの提案**
2. 宮城の復興の動きと活躍する人や観光の魅力を **Instagram&学園祭**で発信
3. 継続的な活動の基盤を作るために**ビジネスプラン**を考案

**11名の女子大生が 宮城でフィールドワーク
 （秋保、石巻、東松島、女川、仙台市内）
 震災復興を学び、観光の魅力を発掘！**

復興に向けた秋保フィナリーの挑戦を聴く




石巻観光PRのために自らサイクリング体験




河北新報本社で震災復興状況を学ぶ

女川で語り部からお話を聞き、宮城のテレビにも出演




3.3. プロジェクト活動：情報発信、オリジナルコンテンツの制作

宮城フィールドワークの事前準備や実際に訪問した体験を、「復興と観光」の両面から、Instagram や公式サイトを使って情報発信を行った。

また、フィールドワークの様子は、学生が自主的に PR 動画を制作し、それも公式サイトで視聴できるようにした。

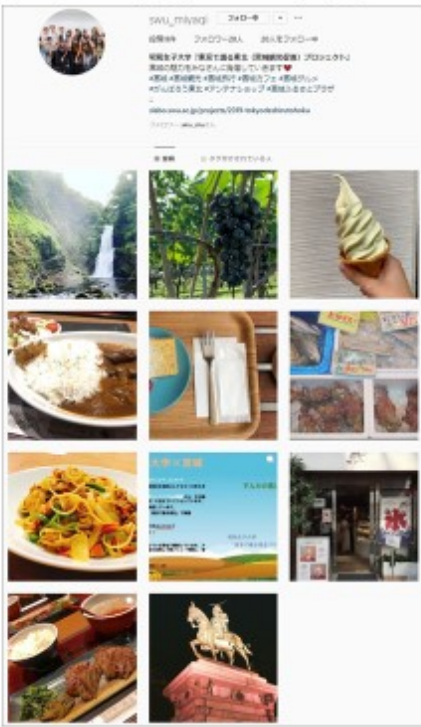
宮城の食材を活用したレシピを開発して、公式ブログ等でも紹介した。

図 2 プロジェクト概要 (2)

『東京で識る東北〔宮城県観光促進〕』プロジェクト-2

Instagramアカウント名: swu_miyagi

宮城アンテナショップや宮城フィールドワークの経験などを発信



公式サイト:
<https://oshima-lab.wixsite.com/tohoku-tokyo>



学生が制作したレシピ

栄養学系の学生を中心に宮城食材を使ったレシピ(案)を多数提案



25

3.4. プロジェクト活動：学園祭「秋桜祭」での発表会兼展示会

プロジェクト活動の集大成として、11 月の秋桜祭で、次のような発表会兼展示会の活動を 2 日間行った。主な展示は次のとおりである。

- ・宮城「復興と観光の旅」の体験記&フォトブックを展示 ※クイズに答えて商品ゲット!
- ・女子大生が選ぶアンテナショップの人気商品とびっくり箱?
- ・女子大生制作のオリジナル映像、パネルで答える希望観光先アンケート 等

また、3人ずつのグループに分かれて、スライドとプロジェクターを使って定期的に活動発表を会場で実施した。

実施において、宮城県東京事務所から観光映像やノベルティの提供を得ることができた。河北新報社からは、東日本大震災翌日の新聞を特別に貸与して頂き、それを展示することで震災直後の大変な状況を、リアル感を持って伝えることができた。

2日間で200名近くの来場者があった。来場者からは「展示物や映像をみて宮城に行きたくなった」「宮城を題材にしたクイズが面白かった」と楽しみ、宮城の魅力を感じてもらえた反応が多かった。また、宮城・東北出身者の方々からは、「東北の復興に東京の学生がこんなに一生懸命関わっているのを見て感動した」と涙した来場者も一部見られ、学生メンバーは活動の意義をあらためて感じる機会にもなった。

図 3 プロジェクト概要 (3)



また、同会場において、宮城大学 大嶋研究室が秋保ワイナリー等と地域連携で推進している、東北復興支援・地域活性化を目的とした『MYU シードル商品開発プロジェクト』のために来場者へのアンケート調査にも協力した。その結果、70 名近く（対象は 20 才以上）の回答を得て、首都圏の消費者の嗜好等を把握するうえで大いに役立った。

※参考：同プロジェクト公式サイト <https://oshimalab4cidre.wixsite.com/myu-cider>

3.5. 3月開催の東北復興イベントへの参加

本プロジェクトとしては、11月の秋桜祭での発表会兼展示会が最終的な活動と位置づけていたが、「活動を継続したい!」という有志メンバーの申し出があり、宮城県東京事務所に相談して、3月に東京で開催予定の東北復興支援イベント(2件)に出展することとした。

出展の目玉の一つとして、新たに女子大生らしい本格的なフォトブック『MIYAGI ～It's time for trip～』を企画し、次のように制作した。

図4 フォトブック『MIYAGI ～It's time for trip～』



この他にも、宮城の観光地をクイズ形式で紹介したり、会場で宮城フィールドワークの動画や写真のスライドショーを準備していた。

しかし、新型コロナウイルスの問題が日本でも拡大し、主催者側が最終的にイベント開催を無期延期することになったため、出展はかなわなかった。

しかし、プロジェクト当初からの活動計画にさらに追加した形での企画を立案し、実行のための準備を学生だけで取り組んでいたのは、自主性の観点からも企画立案・実施の段取りの観点からも高い評価に値すると思われる。

3.6. メディア等を通じた広報実績と実践活用

(1) 広報活動

本プロジェクトが宮城県及び東京などで広く認知されるように、メディア等を通じて広報活動に力を入れた。

秋桜祭のイベント実施に際しては、宮城県東京事務所が SNS 等で支援して頂いた。宮城大学の大嶋研究室でも、Facebook や秋保支援のための Instagram 等で活動紹介を行った。

昭和女子大学は、公式ウェブサイトのトップページや公式 SNS に観光 PV の紹介やイベントの告知について掲載して頂いた。

【テレビ】

TBC 東北放送「N スタミやぎ 早版」（2019 年 9 月 6 日放送）で取り上げられた。

図 5 メディアの掲載例（例 1）



【ラジオ】

ラジオ福島の人気情報番組『朝ゼミ F（エフ）～ビジネスマン学習塾～』（毎週月曜日）の中で、大嶋が出演する担当月に、本プロジェクトの活動紹介を複数回実施した。

- 放送局：ラジオ福島（いわき：1431KHz／福島：1458KHz／郡山：1098KHz／
会津若松：1395KHz）
- 出演者：大嶋淳俊 宮城大学 事業構想学群 教授／小川栄一 アナウンサー

【新聞】

宮城県最大の新聞社である河北新報（2019 年 11 月 27 日朝刊）において、次のように紹介された。

図 6 メディアの掲載例（例 2）



あすへ
東日本大震災

**復興テーマに
大学祭で展示**
昭和女子大

東京都世田谷区で開かれた昭和女子大の大学祭で、同大の学生が、東日本震災の被災地の復興支援と地域活性化をテーマにした展示「東京で宮城を知ろう」を行った。

企画したのは同大現代ビジネス研究所宮城観光促進プロジェクトの学生11人。9、10日の大学祭で、来場者に宮城県内の被災地や観光地に関するクイズを出したり、豊島区にある宮城県のアンテナショップで購入できるホヤなどの特産品を使ったオリジナルレシビを提案したりした。

震災の風化を懸念し、震災発生翌日の河北新報朝刊や写真、映像で、津波被害や復興の歩みを伝えるコーナーも設けた。

メンバーは今年9月、同大研究員を兼務する大嶋淳俊宮城大教授と宮城を訪問。震災発生直後に住民が避難した石巻市の日和山や、震災後に整備された女川町の商店街「シーパルピア女川」を視察し、構想を練った。

いわき市出身の大学4年吉田裕香さん(19)は「東京で宮城の情報に触れる機会



大学祭で自分たちが考えた被災地支援策を発表する学生たち。昭和女子大キャンパス

は少ないので、宮城ゆかりの人たちをはじめ予想以上に反応が良かった。今後、インスタグラム（写真共有アプリ）で宮城の魅力を発信し、被災地を訪れる人を増やしたい」と話した。

【学内メディア「S-Labo」】

学内メディアである S-LABO を通じて、定期的な会議の状況報告から、宮城フィールドワークや秋桜祭への出展などの活動を通じて、学生達が学び・気づいたことについて積極的に広報活動を行った。活動の進捗状況を広く知ってもらうのに大いに役だった。

4. 総括

本稿では、2019 年度の『“東京で識る東北”』プロジェクトの活動概要を紹介した。

本プロジェクトは、東北復興支援・地域活性化という同じ目的で、2017 年度～2018 年度に福島県いわき市のいわき湯本温泉において実施した『東北復興支援のための PBL 手法による観光促進に関する研究 ～いわき湯本温泉の活性化』プロジェクトより参加人数も増えて全 11 人となった。

今回は、この 11 人のうち 1 年生が 7 名を占めたが、2～4 年生の中にいわき湯本温泉プロジェクトの参加メンバー 3 名が継続参加して、このようなプロジェクトに慣れていたため、リーダーシップを発揮してチームをうまくまとめていた。新たに加わった 3 年生は、新鮮な視点を提供してプロジェクト推進に力を発揮していた。そして 1 年生達は、各々の得意・関心分野を活かしてプロジェクトに貢献していた。

2008 年度のいわき湯本温泉活性化プロジェクトの場合はイベントを日本橋の福島県アンテナショップで開催したが、今年度のプロジェクトでは昭和女子大学の学園祭「秋桜祭」という学内の場を活かして、学外だけで無く学内の関係者にも広く知ってもらう形で、多くの来場者を集められたのは大きな成果であった。

参加学生達は宮城・東北に行くのが初めての者も多く、テレビ等でしか見たことがない復興の現状や課題を地元の方から直接聴くことで現実を知り、プロジェクトの意義を見つめ直す機会になった。また、宮城のフィールドワークで初めて東北を旅して「また行きたい」「友達に紹介したい」と地域の魅力を自ら感じ、それを他者に的確に伝える楽しさも理解することができた。

普段は授業等でほとんど一緒になることがない多様な学部・学年のメンバーによって構成された 11 人で構成されていたが、定期的に自主的な会合を開催しながら、チームワークを高めていった。まさに、PBL 活動を体感する機会になったと思われる。

今後も、本プロジェクトで培った知見や経験を活かして、東北のみならず日本全体の活性化に活躍してもらいたいと願っている。

＜謝辞＞

多大なるご協力を頂いた宮城の皆様には深く御礼申し上げます。本文中に組織名を掲載した以外にも、多くの組織・方々のご支援を頂くことができました。

また、このような機会を頂いた昭和女子大学現代ビジネス研究所・事務局、広報面で積極的に協力いただいた昭和女子大学広報部、アドバイザーの磯野彰彦教授に大変お世話になりました。深く御礼申し上げます。

《集合写真》

